

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	あおもりえきしゅうへんせいびすいしんじぎょう
1. 事業(施策)の名称	青森駅周辺整備推進事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	平成 28 年7月1日～令和6年3月 25 日
3. 事業費(工事費)	8,244 百万円
4. キーワード	青森駅周辺におけるバリアフリー対策と交通結節機能強化、回遊とにぎわいの創出、立体道路制度、官民連携
5. 事業概要	
鉄道で分断された東西の市街地をバリアフリーで結び、冬季でも利用しやすい歩行空間を確保するため青森駅自由通路を整備し、西口駅前の輻輳している交通の整序を図り、交通結節機能を強化するため、青森駅西口駅前広場を整備したものである。	

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(a)事業連携 自由通路の駅ビル内部分(約 30m)は立体道路制度を活用	(a)住民参加(ワークショップ等) (b)行政と住民・連携・学識者等との協働(パートナーシップ)
アピールする 2)「秀でた成果」	(e・k)立体道路制度の活用により、青森駅自由通路の東口出入り部分で、JR東日本が事業主体のJR青森駅東口ビルの1階を通る形で、一体的に整備がされ、施工の合理化・効率化が図られただけでなく、良好な景観形成の実現がなされた。	(a)自由通路の内観デザイン等に、住民参加のワークショップでの意見等を取り入れた。 (f)青森駅周辺のまちづくりに関する取組の推進を目的に四者連携協定(市・県・JR東日本・青森商工会議所)を締結した。

7. 特にアピールしたい点
平成 28 年7月の事業着手をきっかけに、青森市、青森県、青森商工会議所、JR東日本の四者が相互に連携・協力し、青森駅周辺のまちづくりに関する取組を推進することを目的とした「青森駅周辺のまちづくりに関する連携協定」(以下、四者連携協定)を締結した(平成 30 年6月締結)。同協定の取組として、旧青森駅東口駅舎跡地には、JR東日本による駅ビル(商業施設、ホテル、県・市の行政施設が入居)が開発され、青森駅周辺のまちづくりが大きく前進した。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



青森駅自由通路及び青森駅西口駅前広場



青森駅自由通路 内観

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

○事業の概要

青森駅周辺地区において、鉄道で分断された東西の市街地をバリアフリーで結び、冬季でも安心して誰もが利用しやすい歩行空間を確保するため、歩行者専用道路として「青森駅自由通路」、西口駅前の輻輳している交通の整序を図り、東口駅前広場の機能を補完し、自由通路と一体となって多様な交通手段に対応するよう交通結節機能を強化するため、「青森駅西口駅前広場」の整備を行う事業である。

事業のイメージ

- 「東西回遊軸(自由通路)」「駅機能(駅舎)」
「都市機能(都市施設)」を一体的に展開(青森駅複合拠点プロジェクト)
- 東口駅前広場に加え西口交通結節機能などを整備(総合交通ターミナル充実プロジェクト)



◇青森駅自由通路(歩行者専用道路)【令和6年3月30日全面供用】

- ・延長約170m、幅員約6m(東口側の延長約30mの区間は幅員約10m)
- ・西口と東口にそれぞれエレベータ及びエスカレータを配置
- ・鉄骨造2階建て 24時間通行可能

このうち、東口側の延長約30mの区間は、JR東日本による駅ビルの1階中央部を通る形で駅ビルと一体に整備(立体道路制度を活用)。幅員は10mと広く、東口駅前広場に接続し、両側が駅ビル商業施設に面しているため、多くの市民、観光客等の往来があり、青森駅周辺での新たな待ち合わせスポットとなりつつある。

また、整備に当たっては、市民意見等を踏まえ、完成した自由通路に愛着をもって利用いただくため、自由通路の壁面は、青森らしく「りんごの木箱」を積み上げたイメージとした。また、市民の作品の展示スペースを設け、供用以来、多くの市民の方に親しみをを持って利用されている。

自由通路壁面の展示スペース



駅ビル内自由通路



◇青森駅西口駅前広場【令和5年3月22日供用】

- ・面積約8,000㎡
- ・バス乗降場(3台分)、タクシー乗降場(3台分)、自動車駐車場(30台分)、自転車駐輪場(493台分)、自動二輪駐輪場(8台分)、バリアフリー接車マス(1台分)
- ・バリアフリー対応トイレ

路線バス(北部、西部方面)のほか、新青森駅・青森駅・フェリーターミナルや主な観光施設を結ぶルートバス「ねぶたん号」の乗り入れにより、公共交通の利便性が大幅に向上した。

青森駅西口駅前広場



○四者連携協定

同事業をきっかけに締結した四者連携協定(青森市、青森県、青森商工会議所、JR東日本)に基づき、四者統一のロゴマーク「AOMORI CONNECTION」の作成、連携イベントの開催等のソフト面でも連携した取組を継続して実施している。



四者連携ロゴ

◇青森駅自由通路の利活用に向けた社会実験

四者連携協定の取組の一環として、令和6年10月には、本市が主体となって「青森駅自由通路の利活用に向けた社会実験」を行った。自由通路を休憩施設(イス・テーブル)の設置場所として、駅ビルの商品販売や試食などの会場として活用した。

10月19、20日の2日間は、JR東日本の協力により、自由通路上にて東京駅で人気のお菓子等を販売する「出前！エキュート&グランスタ東京in青森」を開催し、多くの市民の方に足を運んでいただいた。

社会実験の期間中、利用者を対象に行ったアンケート結果は好評であり、今後も関係機関と連携しながら利活用の検討を行っていくこととしている。

自由通路に設置した休憩施設(イス・テーブル)



自由通路で開催した「出前！エキュート&グランスタ東京in青森」



◇JR青森駅東口ビルの開業

同じく四者連携協定に基づき、旧青森駅東口駅舎跡地には、JR東日本による駅ビル開発が推進された。JR青森駅東口ビルとして開業したこの駅ビルは、商業施設やホテルのほか、青森県の「あおり縄文ステーション じょもじょも」、青森市の市民美術展示館といった行政施設からなり、官民一体となった青森駅周辺の魅力あるまちづくりを象徴するものとなった。

JR 青森駅東口ビル(事業主体:JR 東日本)

